歴史的風致散策

第十七回

勝沼の歴史的風致散策

～冬の勝沼を、巡る～

五 萬福寺

等々力山萬福寺は「杉の御坊」の名を持つ浄土真宗の寺院です。「杉御坊」の名は親鸞上人が箸を地面に刺したところ、その箸が大きな杉の木になったという伝説に由来します。寺記によれば、推古天皇１２年（６０４）、聖徳太子の命により創建されたとも、巨麻郡にあった天眼寺を移したとも伝えられています。法相・天台・真言の三宗を兼ねた道場でしたが、親鸞の教えに従って寛元２年（１２４４）に浄土真宗となり、元享元年（１３２１）に十二坊が興されたといわれています。

正保３年（１６４６）、萬福寺の頭塔十二坊のうち、九坊が浄土真宗の大谷派（東本願寺派）に属し、独立して移転し等々力の寺町がうまれました。移転当初は道の南側に沿い、東から仙光寺、円成寺、光源寺、賢正寺、浄蓮寺、西教寺、慶専寺、報恩寺、専立寺と並んでいましたが、寛延２年（１７４９）２月の寺町、萬福寺大火以後、浄蓮寺が甲州街道側に、慶専寺と専立寺が道北側に移転再興され現在に至っています。

寺町 六

＊ひと息＊
コラム

お子安さんの祭り

日蓮宗に改宗前は子安山地蔵寺や金剛山胎蔵寺という寺名から、地蔵尊を本尊として安産祈願の寺院であったと思われます。毎年１１月２３日に行われる子安地蔵尊大祭は地元では親しみを込めて「おこやっさん」と呼ばれ、底の抜けた柄杓をいただき、出産後はふたつにして奉納します。本堂にはその柄杓がいくつも飾られています。

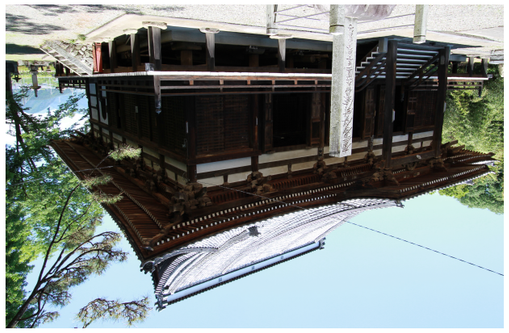
information

◆お問い合わせ先
甲州市教育委員会　文化財課
TEL0553-32-5076

七 天神塚古墳

１４００年前の古墳で、釜櫛川古墳群の一つです。奥行６．５ｍ、幅２．３ｍの南に開口した両袖型横穴式石室を持っており、入口部の石積みのていねいさに特色があります。

八 立正寺



休息山立正寺は、四千坪もの寺域をもつ日蓮宗の寺院です。この寺院は大宝２年（７０２）役小角が創立したといわれます。のちに奈良仏教三論宗に属するごとになり「子安山地蔵寺」と称し、さらにその後、延長３年（９２５）真言宗に代わって「金剛山胎蔵寺」と改めています。参道には多くの坊が並んでいたといわれ、今でも東之坊・北之坊・正覚坊などが残っています。

九 飯縄神社

飯縄神社は慶安２年（１６４９）に創建され、本殿と拝殿はこの時造られたものだと伝えられています。本殿は江戸初期の彫刻が見られ、向拝部分には改修したあとがあります。ご神体は空から落下してきた小石であると伝えられています。境内には、大黒天社の石祠がまつられています。また、近くには祭礼に使われていた花火の木筒が３本保管されています。

十 下馬碑

総門跡地には「ここから先は下馬しなさい」と命じる「下馬碑」が残っています。これは江戸時代の初めに、後水之尾天皇の側近中院通村の助力で立正寺に帰属し、昭和２７年（１９５２）に再発掘されたものです。その背面に刻まれている文治元年の年号を巡っては検討の余地があります。

線ノリトリキ